

# 小学生・中学生の社会的思考力の発達

桜井淳美

## 問題と目的

子どもはどのように社会を認識しているのだろうか。子どもの社会的思考力を促進させるにはどのような指導が効果的であるのだろうか。学習指導要領では、教育課程で生きる力を育成することを目標としている。生きる力の構成要素の一つである確かな学力は、基礎的な知識と問題を解決するための思考力、判断力、表現力の考える力と定義されている。そのため、教育現場では、子どもたちの考える力を伸ばし、よりよい社会の形成者を育成していくことが急務である。

しかしながら、社会的思考力は定義が難しく、他の教科と比べて学習者の認識に関わる研究が極めて少ない。数少ない研究の中で、加藤ら(2012)は歴史と公民の分野において、中学生の社会的思考力・判断力の発達傾向とそれらを構成する5つの能力(事実判断力、帰納的推論能力、演繹的推論能力、社会的判断力、批判的思考力)の関係性について検討した。その結果、社会的判断力と批判的思考力は学年進行に伴って高くなる傾向が見いだされ、特に中学2年生から3年生にかけて伸長する傾向にあることが示された。帰納的推論や演繹的推論から社会的判断へ、また社会的判断から批判的思考へという能力の難度の順序性や能力間同士の相互関連的な関係が見いだされた。

加藤らの研究では、被験者は国立大学附属中学校の生徒であるため、公立学校の平均的なレベルの子どもと比較すると学力が高く、授業内容も公立学校とは異なるスタイルや内容である可能性がある。そのため、公立学校に通う、平均的なレベルの生徒がどのように社会認識をしているのか、どの程度社会的思考力が発達しているのか研究を行う必要がある。また、小学生の社会的思考力の発達の違いについても検討することが必要であり、中学生と併せて発達の変容を明らかにする。本研究では、平均的な学力の小学生・中学生の社会的思考力がどの程度発達しているのか、調査することを目的とした。

## 方法

### 調査対象

公立学校の小学6年生155名、中学1年生188名、中学2年生218名の合計561名。

### 調査時期

2014年11月から12月

### 調査内容

調査用紙は歴史分野と公民分野の2種類用意した。それぞれ、社会的思考力の構成要素である①社会的認識力、②社会的判断力、③批判的思考力の3つの能力を測定する問題と、小学校6年生で学習する基礎問題を出した。以下に問題番号と調査項目を示す。

問1：事実判断問題、問2：社会的判断問題、

問3：①帰納的推論問題、②演繹的推論問題、問4：批判的思考問題、問5：基礎問題

手続き

作成した調査問題について調査協力校の校長から承諾を得たあと、学校を通じて調査を実施した。回答時間は 20 分から 30 分程度であった。

### 評価基準

問 1(事実判断問題)は指摘数，問 5(基礎問題)は正答数，問 2, 3, 4 は記述内容で 3 段階のレベルに評価した。

## 結果と考察

### 【歴史分野】

#### ①問題の回答者率

帰納的推論問題，演繹的推論問題，社会的判断問題，批判的思考問題において回答者がどのレベルに分類されたか，学年別に  $\chi^2$  検定を用いて人数の偏りを調べた。その結果，帰納的推論問題以外で人数の偏りが見られた。

#### ②各問題の関連性

事実判断問題の指摘数の平均値を各問題のレベル別に算出し，その結果を分散分析にかけた。分散分析の結果，各問題ともレベル 2 に分類された者の平均値は他のレベルに分類された者の平均値より有意に高かった。つまり，事実判断能力が高い者は，他の能力も高いことが分かった。

次に，帰納的推論問題，演繹的推論問題，社会的判断問題，批判的思考問題の相互の関連を調べた。各問題でレベル 2 に分類された者が他の問題でどのような評価を得ているのか調べ， $\chi^2$  検定を用いて人数の偏りがあるか調査した。その結果，ほぼ全ての問題間で人数の偏りが見られた。この結果をもとに，残差分析を行ったところ，演繹的推論問題と社会的判断問題，批判的思考問題においてレベル 2 に分類された者がレベル 2 に分類される傾向にあることが示された。

### 【公民分野】

#### ①問題の回答者率

帰納的推論問題，演繹的推論問題，社会的判断問題，批判的思考問題において回答者がどのレベルに分類されたか，学年別に  $\chi^2$  検定を用いて人数の偏りを調べた。その結果，批判的思考問題以外で人数の偏りが見られた。

#### ②各問題の関連性

事実判断問題の指摘数の平均値を各問題のレベル別に算出し，その結果を分散分析にかけた。分散分析の結果，帰納的推論問題のレベル 2 に分類された者の平均値は他のレベルに分類された者の平均値より有意に高かった。つまり，事実判断能力が高い者は，帰納的推論能力が高くなるが，他の能力との関連は見いだせなかった。

次に，帰納的推論問題，演繹的推論問題，社会的判断問題，批判的思考問題の相互の関連を調べた。各問題でレベル 2 に分類された者が他の問題でどのような評価を得ているのか調べ， $\chi^2$  検定を用いて人数の偏りがあるか調査した。その結果，ほぼ全ての問題間で人

数の偏りが見られた。この結果をもとに、残差分析を行ったところ、演繹的推論問題と社会的判断問題以外の問題間で、レベル 2 に分類された者がレベル 2 に分類される傾向にあることが示された。公民分野では一方でレベル 2 に分類され、高い評価を得ている者は他方でもレベル 2 に分類されているため、各能力ともに発達していることが示された。

### 総合的考察

本研究では、生きる力や 21 世紀型スキルなどの考える力の育成が必要とされている現状において、小学生・中学生の社会的思考力がどの程度発達しているのかを、公民分野と歴史分野において検討することを目的とした。

調査の結果、歴史分野、公民分野ともに一部の問題では学年が上がるとともに、社会的思考力が発達している傾向が示唆されたが、学年が上がっても社会的思考力が発達しているとは言えない問題もある。そのため、必ずしも学年が上がるにつれて社会的思考力が発達しているとは言えない。

本調査で小学 6 年生、中学 1 年生、中学 2 年生全ての学年において、社会的思考力が発達していると判断された者は各問題とも全体の 4 割程度であった。他方で、基礎的な知識を問う問題の正答率は各学年とも差がなく、7 割程度であった。そのことから、基本的な知識の習得ができていても、社会的事象についての問いに対して、知識を活用し、答えを導き出す社会的思考力は発達しているとは言えない。全国学力調査で実施されている国語と算数・数学においても、基本的な知識を問う A 問題では正答率は 7 割から 8 割近い。しかし、知識の活用力を問う B 問題では正答率は 5 割程度になる。今回行った社会的思考力の発達に関する調査は、全国学力調査の B 問題に相当する調査であった。全国学力調査には含まれていないが、社会科においても国語や算数・数学と同様に知識の活用力、つまり社会的思考力の発達が十分でないことが示唆される。社会的思考力が小学生・中学生の時期に発達していないことは、極めて重要な問題であり、早急に改善していく必要がある。そのためには、社会的思考力の発達を妨げている認知的な障害を明らかにし、小学生・中学生の社会的思考力の発達を促すことのできる指導方法や支援方法を確立していくことが必要である。

### 今後の課題

本研究の結果、小学生・中学生の社会的思考力は、一部で学年が上がるとともに発達していく傾向があるが、社会的思考力が十分に発達している子どもは少ないことが示唆された。そのため、子どもの社会的思考力の発達を促す指導方法や支援方法を検討し、実践していくことが必要である。また、本調査では行わなかった中学 3 年生以降の社会的思考力の発達の様子も調査を行う必要がある。中学 3 年生や高校生の社会的思考力がどのように発達しているのか調査を行うことで、学年や思考力のレベルに合った指導方法や支援方法を検討することができると考えられる。

## 引用文献・参考文献

- 加藤寿朗・梅津正美・前田健一・新見直子他(2013). 中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅱ)－公民的分野を事例とした調査を通して－ 島根大学教育学部紀要(教育科学), **46**, 61-73.
- 加藤寿朗(2014). 社会的認識と指導 栗山和広(編著) 授業の心理学－認知心理学からみた教育方法論－ 福村出版 pp.126-145.
- 加藤寿朗(2010). 社会的認識 栗山和広(編著) 子どもはどう考えるか－認知心理学からみた子どもの思考－ おうふう pp.127-146.
- 国立教育政策研究所(2014). 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果について 国立教育政策研究所 <<http://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/>>(2015 年 1 月 28 日)
- 国立教育政策研究所(2014). 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理 国立教育政策研究所  
<<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/Houkokusho-5.pdf/>> (2015 年 1 月 28 日)
- 麻柄啓一・進藤聡彦(2008). 社会科領域における学習者の不十分な認識とその修正 東北大学出版会
- 水越敏行・加藤幸次他(2009). 小学生の社会日本のあゆみ 6 上 日本文教出版
- 文部科学省(2008). 小学校学習指導要領解説社会編 東洋館出版社
- 文部科学省(2008). 中学校学習指導要領解説社会編 東洋館出版社
- Patrick Griffin, Barry McGaw, Esther Care(2012). *ASSESSMENT AND TEACHING OF 21ST CENTURY SKILLS*. Springer Netherlands.
- (P.グリフィン 三宅なほみ(監訳)(2014). 21 世紀型スキル 北大路書房
- 佐々木毅・岩田一彦・谷川彰英他(2009). 新編新しい社会 6 下 東京書籍
- 梅津正美・加藤寿朗・前田健一・新見直子他(2012). 中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する研究(Ⅰ)－歴史的分野を事例とした調査を通して－ 島根大学教育学部紀要(教育科学), **28**, 64-79.
- 梅津正美(2007). 社会科におけるテスト問題構成の方法－社会科学力評価－ 鳴門教育大学研究紀要, **22**, 175-187.